

コンポーネント事業

常務執行役員 大村 泰弘

40

- 皆さん、こんにちは。社長室長の大村です。よろしくお願いします。
- 私からは、コンポーネント事業とデジタルマニュファクチャリング事業について、ご説明します。

(ご参考) 決算と中期経営計画の区別の違い

決算報告上の区分		中期経営計画上の区分
報告セグメント	組織名称・内容	事業領域
映像事業	映像事業部	映像
ヘルスケア事業	ヘルスケア事業部	ヘルスケア
精機事業	FPD装置事業部	精機
	半導体装置事業部	
「コンポーネント事業」	カスタムプロダクツ事業部	「コンポーネント*」
	ガラス事業室	
	デジタルソリューションズ事業部 うち、光学コンポーネント他	
	デジタルソリューションズ事業部 うち、材料加工・ロボットビジョン	「デジタル マニュファクチャリング」
「産業機器・その他」	産業機器事業部	経営基盤
	その他	
各セグメントに 配賦されない全社損益	新規事業開発費用 (次世代プロジェクト本部) 基礎研究・本社機能の一般管理費など	

【中期経営計画上の区分への調整】

・「コンポーネント*」

= 報告セグメント「コンポーネント事業」から
デジタルソリューションズ事業部に含まれる
「材料加工・ロボットビジョン」を除く

・「デジタルマニュファクチャリング」

= 報告セグメント「産業機器・その他」
に属する「産業機器事業部」に上記の
「材料加工・ロボットビジョン」を加える

調整額

「材料加工・ロボットビジョン」

	2022年3月期	2023年3月期
売上収益	20億円	40億円
営業利益	0億円	0億円

- はじめに、今年4月に発表した新中期経営計画で定義した事業領域が、決算発表の報告セグメントとどう異なるか、改めてご説明します。
- 黄色で囲った部分が、中計におけるコンポーネントとデジタルマニュファクチャリング事業になります。
- 左の決算報告セグメントではコンポーネント事業の中に、デジタルソリューションズ事業部が含まれますが、このうち、成長ドライバーとして注力する材料加工・ロボットビジョンは、コンポーネントに留まらず、完成品・受託加工などのサービス一体でソリューション提供するビジネスモデルです。
- また産業機器事業の測定検査機器と合わせて、製造業のデジタル化を推進する役割を担うと考えています。
- 将来は合理的な組織再編も想定していることから、2030年のありたい姿を踏まえ、産業機器事業と材料加工、ロボットビジョンをデジタルマニュファクチャリング領域と定義いたしました。

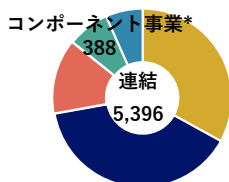
事業概要

コンポーネント事業*

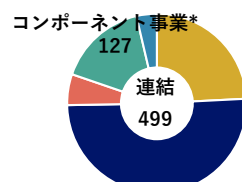
2022年3月期 (※1)

単位：億円

売上収益



営業利益 (※2)

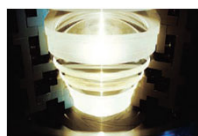


ありたい姿

顧客のイノベーションを支えながら、
顧客とともに成長

主要製品・サービス

光学・EUV関連コンポーネント、特注機器・宇宙
関連、エンコーダ、FPDフォトマスク基板



光学コンポーネント



インテリジェント
アクチュエータユニット
C3 eMotion]



FPDフォトマスク基板

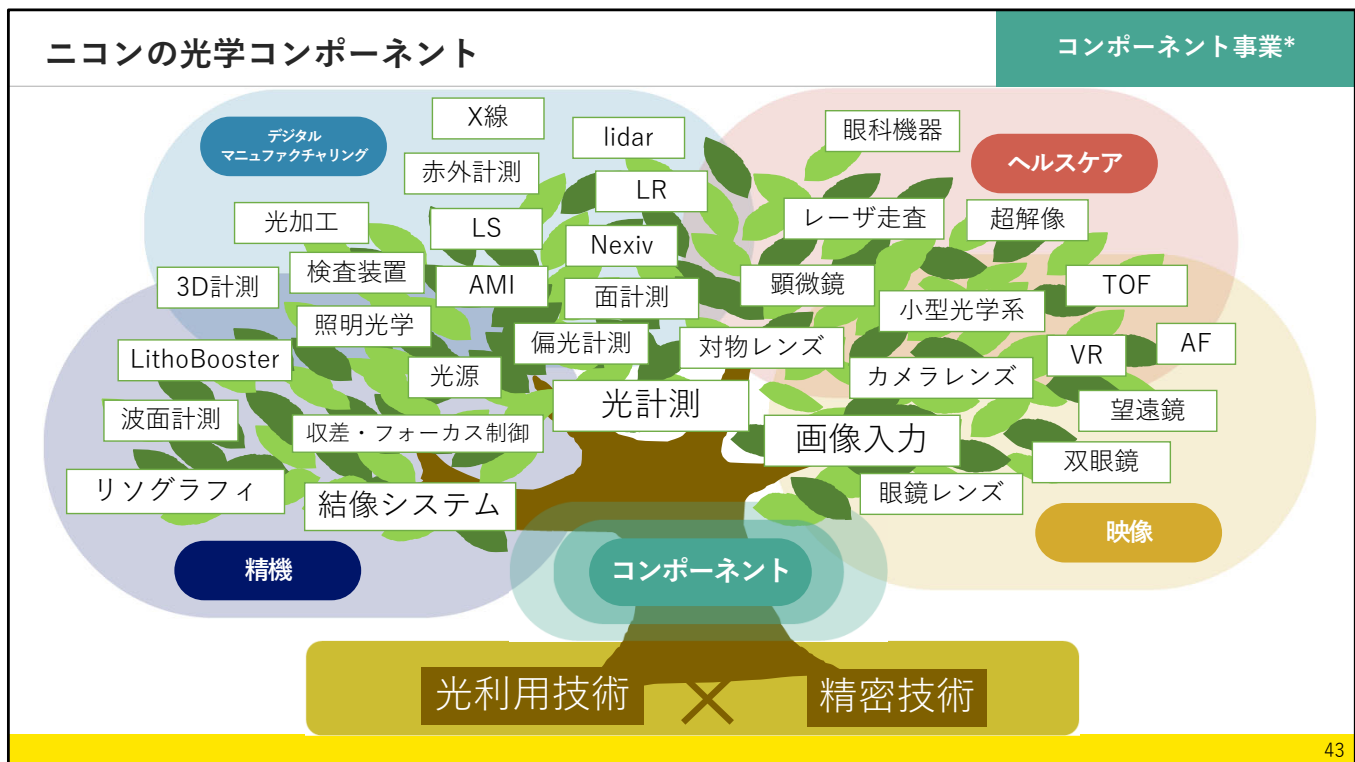
財務目標

	2023年3月期(※1)	2026年3月期
売上収益	490億円	800億円
営業利益	170億円	230億円
営業利益率	35%	29%

(※1) 報告セグメント「コンポーネント事業」の売上収益、営業利益からスライド41の右下にある調整額を反映
(※2) 2022年3月期の営業利益割合は全社費用控除前で表示

42

- それでは、コンポーネント事業からご説明します。
- コンポーネントは、ニコンの全ての事業の提供価値の源泉です。
これを顧客に直接提供し、新たなイノベーションを支えることで、
ともに成長することを目指します。
- 「完成品販売中心のビジネスからの進化」は、前中計からの継続課題です。
- 顧客に寄り添い、ニーズを的確に把握し、完成品・サービス・コンポーネント一体で
ソリューション提供していくことは非常に重要だと認識しています。
- ビジネスは「光学コンポーネント」、「EUV関連コンポーネント」、「特注機器・宇宙関連」、
「エンコーダ」、「FPDフォトマスク基板」など多様な構成で、
中計の定義では前期は売上388億円、営業利益は127億円でした。
- 本年度から始まる新中期経営計画では、
最終年度の2025年度で売上800億円、営業利益230億円を目標に掲げ、
高い売上成長と持続的な収益性向上を目指しています。



- 「コンポーネントはニコンの提供価値の源泉」という話をこのスライドで木で図式化しました。
- ニコンは、根っこのコア技術、即ち光利用技術と精密技術を組み合わせ、幅広い分野で、高精度、高付加価値なコンポーネントを連綿と生み出してきました。これがそれぞれの枝となり、光学・精密製品として顧客に価値を提供してきました。
- それらが、映像、精機、ヘルスケアといった今日のビジネス、事業につながっています。
- 昨今では、顧客・社会への価値提供方法や範囲が拡大し、スピードもさらに重要です。完成品を売るという限定的な顧客接点から、コンポーネントやキーデバイスを直接顧客へ届けることでビジネスを拡大したいと考え、この事業を強化しています。

コンポーネント* 事業戦略・成長ドライバー		コンポーネント事業*
ありたい姿	顧客のイノベーションを支えながら、顧客とともに成長	2022年4月発表 『中期経営計画(2022～2025年度)』 より再掲
運営方針	✓ 光学コンポーネント(成長ドライバー) ・高耐久・高性能・安定供給ニーズにタイムリーに対応 ✓ EUV関連コンポーネント(成長ドライバー) ・生産能力増強、高NA（開口数）対応で事業拡大 ✓ エンコーダ ・人と協働するロボット向けモジュールに注力 ✓ ガラス ・高精度研磨・高品質成膜の 大型FPDフォトマスク基板に集中	半導体関連産業における貢献領域 新たな高付加価値品ビジネスを育成
収益計画	売上収益倍増により、営業利益200億円以上へ	

- ではそのコンポーネント事業です。
- こちらのスライドは基本的に中計発表と同じ内容ですが、この個々のビジネスについて、今回は少し詳細のスライドを準備しましたのでご説明します。

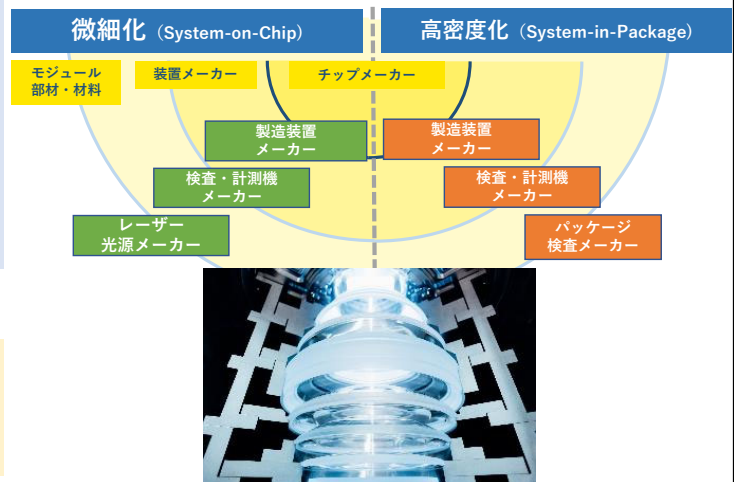
市場動向と事業戦略

- 5G、IoT、AI、自動運転技術、ニューラルネットワークなど様々なアプリケーションの登場により、活況な半導体市場に向けて、微細化・三次元化の2つのトレンドに沿った市場展開
- 高精度光学コンポーネントにおける、ワンストップソリューション（設計・試作・量産まで）を提案
- 半導体装置メーカーの知見を活かし、光学コンポーネントを顧客装置にインテグレーションする、知見・経験・価値の提供

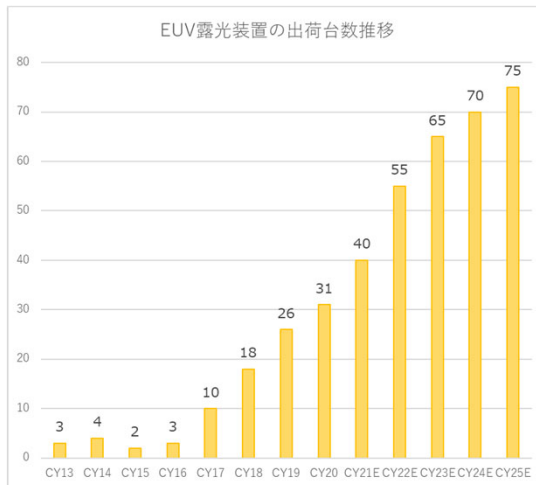
事業展開

- ① 光学部品：半導体レーザーメーカーとの連携
- ② 光学コンポーネント：半導体・FPD等の製造・計測メーカーとの連携
- ③ その他：レーザー加工機メーカー（半導体市場以外）への光学コンポーネント拡販

光学コンポーネントで半導体の微細化（EUV）及び高密度化（最先端IC基板）に貢献



- まず、光学コンポーネントです。
- 半導体市場の活況が続く中、関連する顧客ニーズに沿ったビジネス展開が実現しつつあります。
- 半導体の微細化・三次元化など技術動向を踏まえたビジネス展開は、これまで半導体露光装置メーカーとして培った技術、知見を活かして、顧客のニーズや課題を正しく掴み、高性能コンポーネントの速やかな提供に努めています。
- 単に市場成長の恩恵ではない、ニコンだからこそ顧客ニーズにマッチすることができる価値を開発・試作・製造ワンストップで顧客に提供してまいります。



出所：2021年9月8日 野村証券株式会社 Global Markets Research
EUVL業界 Close-Upレポートより

EUV関連領域における事業化の変遷

1986 NTTによるEUV縮小投影露光の成功

ニコンではこの時期から、

NEDO委託研究

「EUV露光システム基盤技術開発」

などで露光装置光学系用非球面加工技術、

計測技術、EUVL反射ミラーのための多層膜技術、

露光光学系コンタミネーション制御技術、

ミラー変形回避鏡筒技術などを長期に渡り開発

2007 SeleteへNA0.25フルフィールド露光機納入

位相シフトマスクで16nmL&S解像

2008 EUVAで高NA0.3EUV光学系露光実験成功

2011 EUVL露光装置開発から撤退

引き続き、EIDECにて将来のためのマスク、

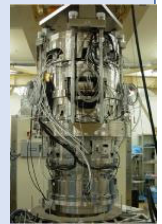
レジスト開発用小フィールド高NA露光機に

協力、蓄積技術をEUV関連コンポーネント、

ArF光学系などへ応用

現在 カスタムプロダクツ事業の顧客伴走・生産技術基盤

と組み合わせ、EUV関連領域を成長ドライバー化



先端ロジックに加え、DRAMメーカーもEUV露光装置を量産に使用開始し、EUVマーケットが拡大
EUV露光装置の普及に伴い、関連製品の需要拡大が期待

- 続いてEUV関連コンポーネントです。
- 顧客の投資計画に直結するビジネスのため、定量情報を追加開示することは難しいですが、将来の事業機会を考える際に、EUV露光装置の出荷台数推移がヒントになります。
- EUV露光装置の普及に伴い、関連製品の需要拡大も期待できると考えることができます。
- このグラフに示されたように、先端ロジックに加え、DRAMメーカーもEUV露光装置を量産適用を開始し、中計期間中、EUVマーケットは順調に拡大していくものと見込んでいます。
- 右側には、EUV関連ビジネスへの挑戦の歴史を記載しています。
- EUV関連コンポーネントとしての事業化は20年程前からになりますが、このビジネスの礎となったEUV露光技術開発のスタートは30年以上前です。
- EUV露光装置の開発には莫大な投資が必要であり、10年ほど前に開発から撤退しました。しかし、長年培ってきた知見を継承し、要素技術の開発を継続することで、お客様の要求に応えることができています。

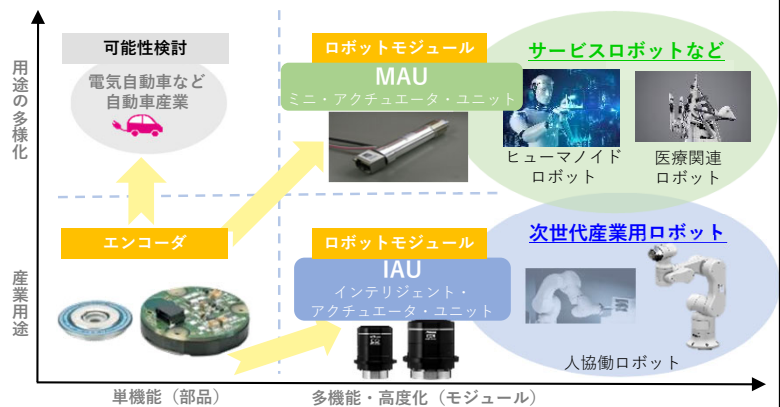
市場動向と事業戦略

- FA市場規模は、年率6～8%で成長し、特に東アジアの成長は8%と伸び率が高くなると予想
- 製造現場での人手不足とアプリケーション技術の発展により、人協働ロボット市場は、年率38%（FY20～25）で拡大
- 次世代アブソリュートエンコーダ投入により、競争優位の商品力を堅持しつつ、安全で使いやすいロボットモジュールで新たな市場を創造

事業展開

- ① エンコーダ国内メーカーへの拡販、海外メーカーの攻略
- ② エンコーダからロボットモジュールに展開。産業用ロボットメーカーとの連携
- ③ 次世代産業用ロボットやサービスロボット市場などへも参入を計画

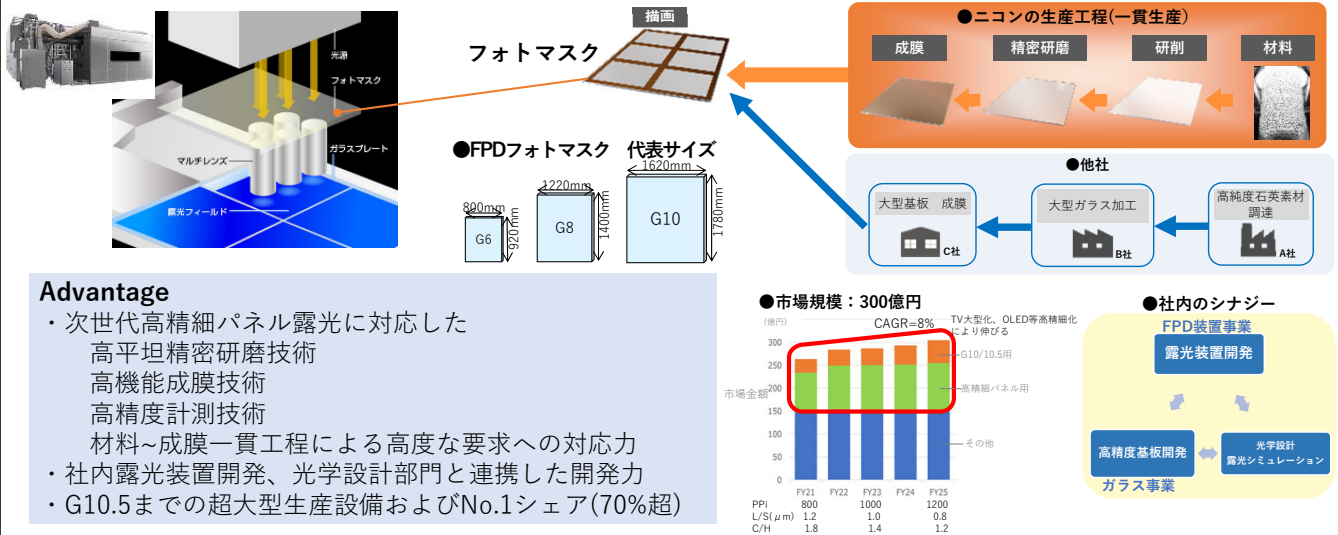
エンコーダ（部品）からロボットモジュールに展開



- 続いてエンコーダ事業です。
- エンコーダは、ロボットアームなどの動きの制御に欠かせないセンサーとして、ロボット産業の発展に貢献しています。
- 当社のエンコーダは多くの産業用ロボットの関節に搭載されており、特に、ロボットメーカー向けでは国内トップシェアを有します。
- また、用途と機能面での向上を図り、エンコーダ単体ではなくロボットモジュールとして開発・製造・販売する機会も捉え始めています。
- 多機能化、高度化したインテリジェントアクチュエータユニット（IAU）、さらにミニアクチュエータユニット（MAU）で用途の多様化にも対応し、市場成長率が高い、次世代産業用ロボットやサービスロボット市場などへも参入を計画しています。

FPDフォトマスク基板

コンポーネント事業*



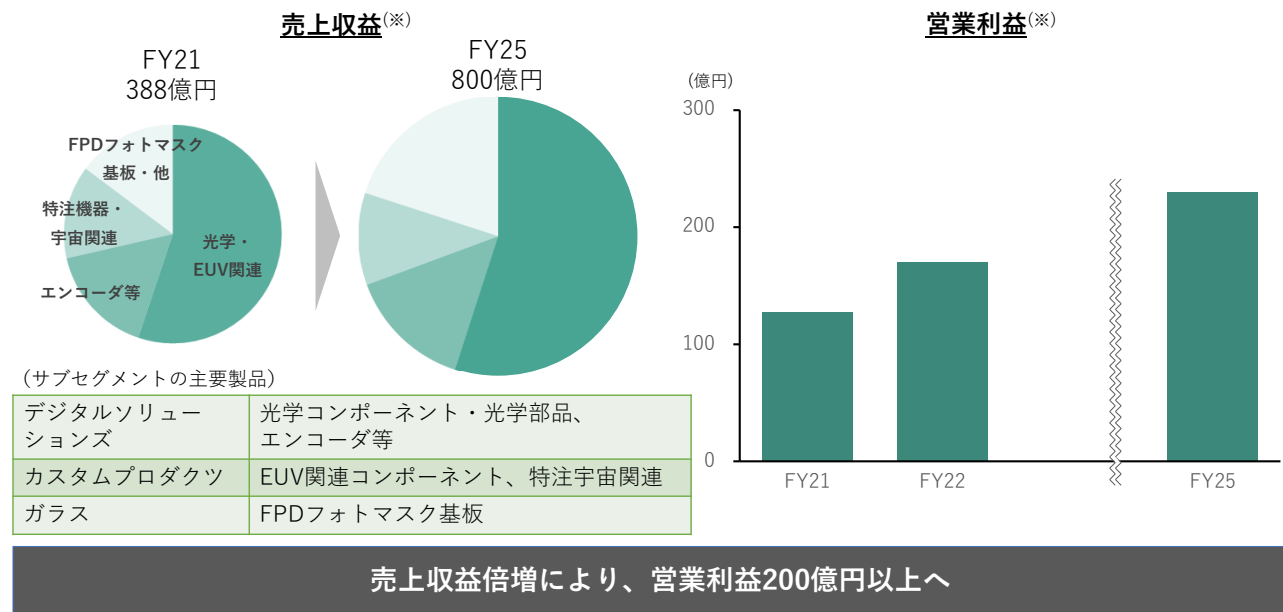
高精度研磨・高品質成膜の大型タイプに経営資源を集中

48

- 最後は、ガラス関連ビジネスです。
- 当社はFPD リソグラフィ工程に使用するフォトマスク基板の開発、生産を行っています。
- 製品の強みは、次世代高精細パネルに対応した精密研磨、高機能成膜、高精度計測にあります。また、材料から成膜まで一貫生産を行うことで高度な要求への対応が可能となっています。
- 加えて、社内の精機事業、光学設計部門と連携した開発力や顧客ニーズの先読み力も強みです。
- 市場規模は300億円で、TV大型化やOLEDなど高精細化により、G10.5および高精細パネル用の市場成長はCAGR8%程度と想定しています。
- ニコンは、G10.5用マスク向けに超大型生産設備を持ち、70%超のシェアを有しています。

収益計画

コンポーネント事業*



(※)報告セグメント「コンポーネント事業」の売上収益、営業利益からスライド41の右下にある調整額を反映

49

- 各ビジネスについて説明してきましたが、何れも収益性と成長性が期待できます。
- 足元はEUV関連コンポーネントが利益成長を牽引していますが、
今後は光学コンポーネントはじめ、その他のビジネスも大きく貢献する計画です。
- 2025年度までに売上収益を倍増させ、営業利益200億円以上とスケール化を実現し、
映像事業、精機事業に並ぶ収益の柱へ育成します。
- なお、この事業に含まれる、特注機器・宇宙関連ビジネスは秘匿性が高いため、
詳細を割愛させていただきました。

デジタルマニュファクチャリング事業

常務執行役員 大村 泰弘

50

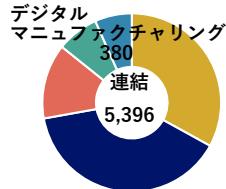
- 続いてデジタルマニュファクチャリング事業について、ご説明します。

事業概要

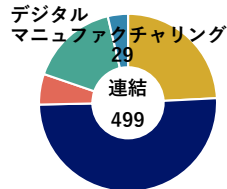
デジタル
マニュファクチャリング事業

2022年3月期^(※1) 単位：億円

売上収益



営業利益^(※2)



ありたい姿

光応用技術で、ものづくりの世界に
革新をもたらす

主要製品・サービス

産業機器事業（レーザーレーダー、X線/CT、
インライン計測、CNC画像測定システム、工業用顕微鏡）
材料加工（光加工機や受託加工）、ロボットビジョン



大規模空間非接触測定機
レーザーレーダー「APDIS」



X線CT検査装置
「XT H 225 ST 2x」



CNC画像測定システム
「NEXIV VMZ-S」シリーズ



光加工機
「Lasermeister 102A」

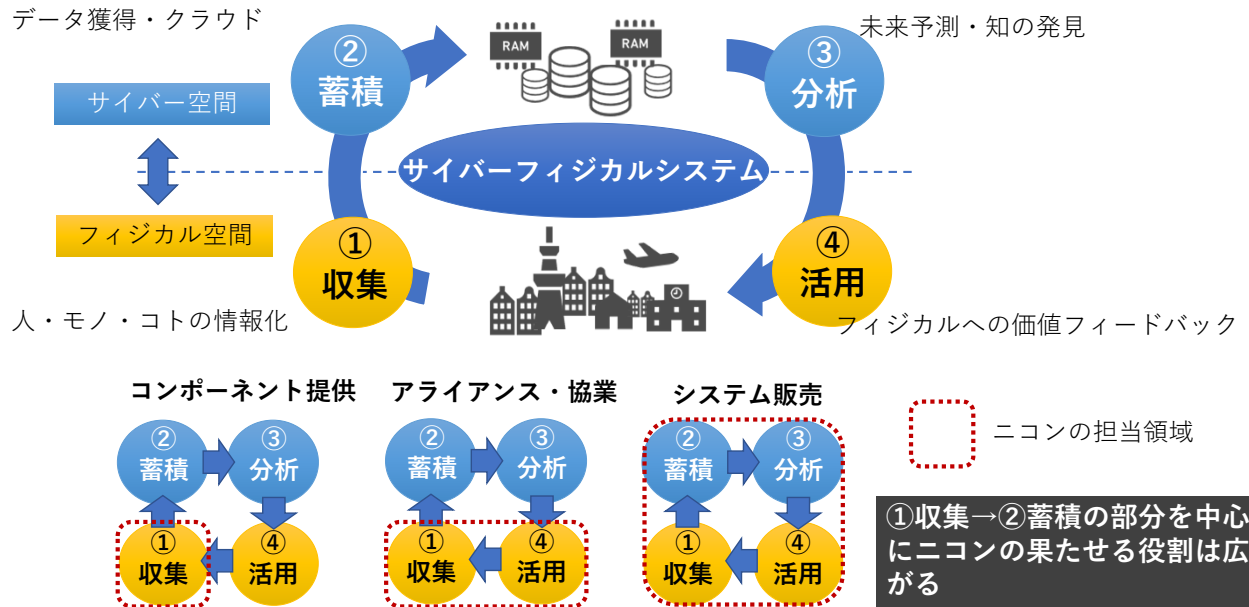
財務目標

	2023年3月期 ^(※1)	2026年3月期
売上収益	410億円	700億円
営業利益	40億円	110億円
営業利益率	10%	16%

(※1) 報告セグメント「産業機器・その他」の売上収益、営業利益からスライド41の右下にある調整額を反映
(※2) 2022年3月期の営業利益割合は全社費用控除前で表示

51

- デジタルマニュファクチャリング事業は光応用技術で、ものづくりの世界に革新をもたらす。これを目指して事業を運営しています。
- 冒頭ご説明したように、事業は主に「産業機器事業部」と「デジタルソリューションズ事業部の材料加工・ロボットビジョン」で構成しており、前期は売上380億円、営業利益29億円の実績でした。
- 新中計の最終年度、2025年度で売上700億円、営業利益110億円を目標に高い売上成長と持続的な収益性の向上を目指します。

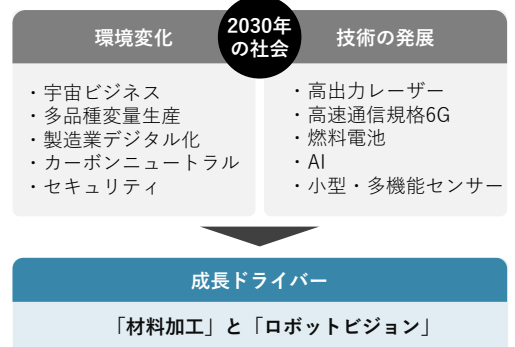


- デジタルマニュファクチャリング事業は、人と機械が協創する社会において、ニコンが果たす役割を代表するものと考えています。
- 人と機械の共創を語るときにサイバーフィジカルシステムというスライド上段の絵がよく語られますが、フィジカル空間の人モノコトの情報はデータ化されて、サイバー空間に送り込まれ、そこで蓄積され、分析されて新たな知の発見が生まれ、フィジカル空間にフィードバックされます。
- ニコンはこのすべてを含むシステムの提供を行う、あるいは、顧客のシステム構築に合わせて、収集と活用の部分、さらには収集の部分、画像入力、光計測の部分コンポーネントとして提供することを目指します。

運営方針

- ✓ レーザーレーダー
 - ・自動車・航空分野で顧客と共同開発
- ✓ X線・CT
 - ・EV用バッテリー検査分野に注力
- ✓ インライン計測
 - ・生産工程のデジタル化を推進
- ✓ 材料加工
 - ・付加・除去・リブレット3方式の加工を
完成品、コンポーネント、
受託加工サービスで提供
- ✓ ロボットビジョン
 - ・自動車・電子分野から展開

事業に関連性の高いトレンド



※ 「材料加工」と「ロボットビジョン」は報告セグメント「コンポーネント事業」、その他のビジネスは報告セグメント「産業機器・その他」に属する

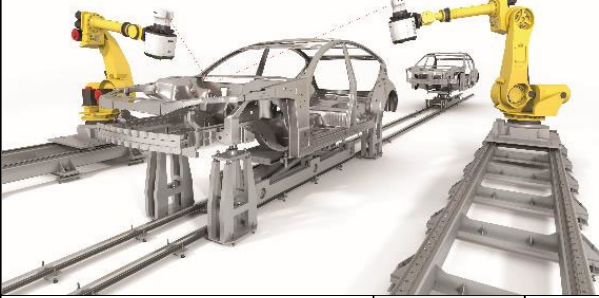
53

- 中計期間中のデジタルマニュファクチャリング事業の概要です。
- 当面は、産業機器事業の各ビジネスが成長を牽引すると考えています。
- その上で、右に記載の2030年に向けた環境変化や技術革新を踏まえ、材料加工とロボットビジョンという成長ドライバーをスケール化させることで、年率10%を超える持続的な売上成長を目指します。

産業機器事業の事業機会					デジタル マニファクチャリング事業	
ゲームチェンジャー	EV / 5G					
ターゲット業界	自動車		電子部品 (車載用)		半導体	
ターゲット用途 (代表例)	車体	LIB*	コネクタ	PCB*	WLP*	
成長シナリオ	製造工程の 自動化	軽量化 (アルミ)	発火 防止	再 利用	重要部品の全数検査	製造工程の自動化
ソリューション 提供	レーザーレー ダーとロボット の組み合わせ	X線・CTとオートローダー の組み合わせ			CNC画像測定システム とオートローダーの組み合わせ	
競争力	当社独自の 大規模空間 精密計測	高出力X線源のアドバンテージ (RT*による高速・高解像なX線CT)			CNC画像測定システムは 日亜の中高級機市場でトップシェア	

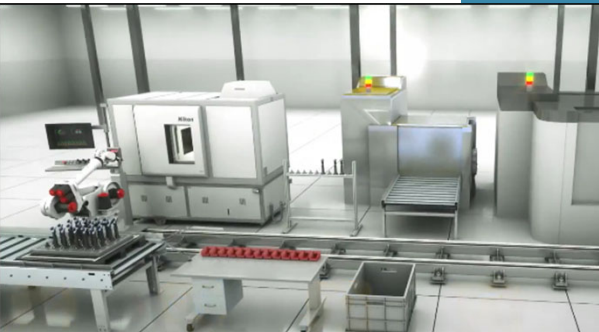
(補足) LIB(Lithium-ion battery) は、リチウムイオンバッテリー
PCB(printed circuit board) プリント回路板 / WLP(Wafer level packaging)は先端半導体パッケージング
RT(Rotating Target) は、X線発光盤を回転させることで高熱を防ぎ、高出力を実現させる技術

- 産業機器事業の事業機会をこのスライドにまとめました。
- この事業におけるゲームチェンジャーは、電気自動車、および通信の5Gであり、ターゲットは、自動車、車載用電子部品、半導体業界だと考えています。
- 当社のビジネスの最近の状況は、主要な自動車メーカーの多くとビジネスが進行していますし、活況の電子部品や半導体業界でも顧客との共創が始まっています。
- 当事業では、資料中段の黄色の部分に示したように、ターゲット業界ごとに当社製品の利用用途を踏まえた成長シナリオを想定しています。
- ブルーの部分のソリューション提供について、以下、具体的に説明します。

レーザーレーダー、インライン計測			デジタル マニュファクチャリング事業	
革新的な計測ソリューションを製造現場に ～マーケットをリードするニコンの計測・検査技術が、次の一手をサポートします～ 	ソリューション概要			関連動画 APDIS自動車インライン： https://youtu.be/riGBpSc43s4
	強み	・高精度：28um@2m ・高速：スループット従来比8倍 ・耐環境：IP54準拠	強化ポイント	・生産現場向け、小型化、軽量化、高速化
	導入企業	1) BMW 2) Stellantis (Chrysler JEEP) 3) 日米自動車メーカー		
	市場シェア (参考)	2021年：10% 累積設置台数シェア (事業部調べ)	市場規模 (参考)	2021年：2,692台 自動車産業向けLR TAM (事業部調べ)

55

- 最初にレーザーレーダー、これをロボットと組み合わせたインライン計測についてご説明します。
- 自動車・車体用途では、世界中の製造工場では工程の自動化が進んでおり、測定分野においても同様の傾向が見られます。
- 例えば、今までは、接触式三次元測定機を利用して、抜き取りで測定室まで車体を移動させ、1日がかかりで測定していましたが、現在では非接触三次元測定とロボットを組み合わせ、抜き取り検査ではありますが、製造現場で短時間で測定が実施されています。
- 将来的には、抜き取り検査ではなく、生産ライン上でより短時間に全数検査することを求められており、当社レーザーレーダーは、大規模空間で精密測定可能な他社にはない価値提供が可能であり、自動車生産ラインのデジタル化を実現します。

X線・CT、インライン計測			デジタル マニュファクチャリング事業	
革新的な計測ソリューションを製造現場に ～マーケットをリードするニコンの計測・検査技術が、次の一手をサポートします～ 	ソリューション概要			関連動画 LIBインライン： https://www.youtube.com/watch?v=yhHsZG7aEi0
	強み	・高出力高分解能 -225kV Rotating Target ・高速CT処理 -Helical / Half turn	強化ポイント	・生産現場向け自動化、高稼働率、ユーザービリティ向上
	導入企業	1) コネクタ・センサーメーカー 2) EVバッテリーメーカー 3) 総合電機メーカー		
	市場シェア(参考)	2021年：20% 世界シェア3位（事業部調べ）	市場規模(参考)	2021年：約300億円 工業用X線装置市場（事業部調べ）

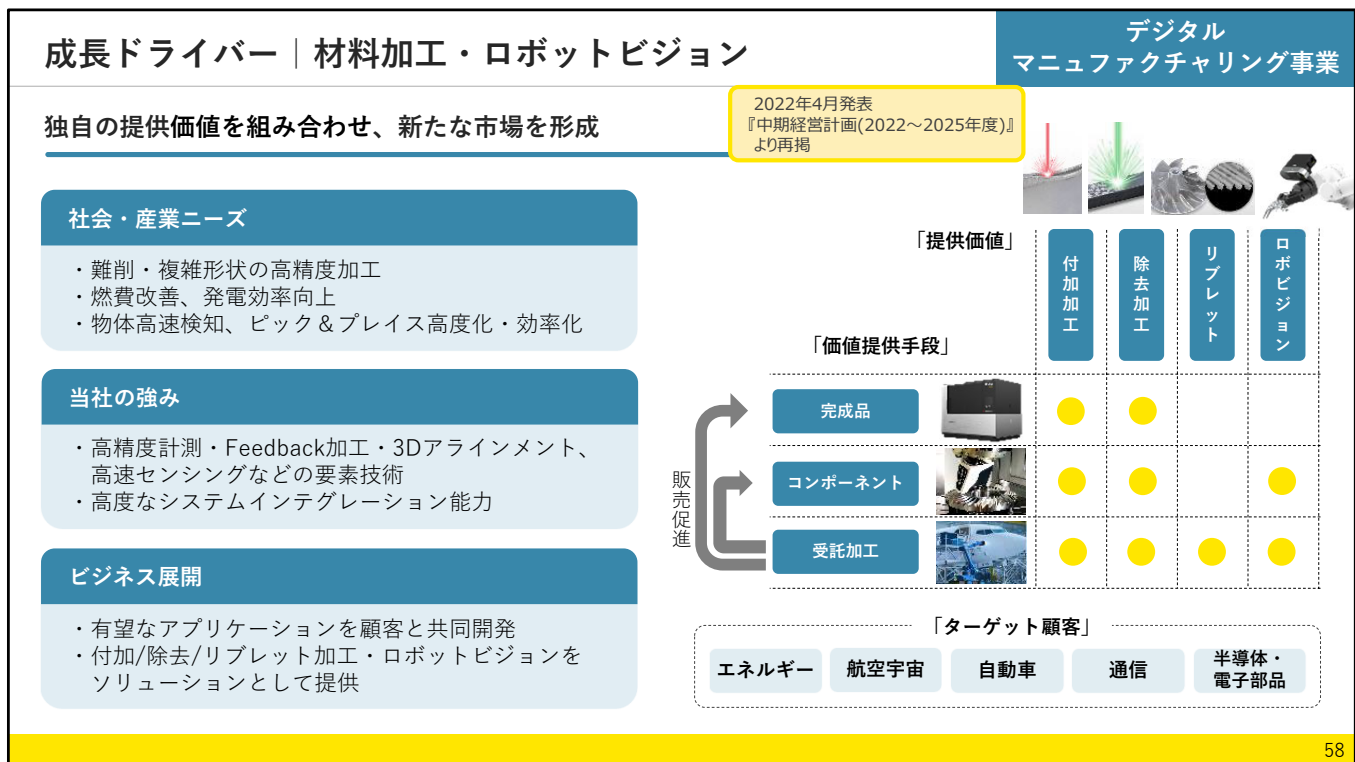
56

- 次に、X線・CTのインライン計測です。
- 電気自動車の車体、およびリチウムイオンバッテリーでは、世界中で電気自動車向けの新規工場への投資が加速しています。
- 電気自動車では、燃費性能向上のための車体軽量化が課題であり、複数部品がアルミ一体成形品となっています。
- 鋳造製造である、この一体成型品の内部で発生する、いわゆる「巣」の検査方法の確立が急務です。
- また、リチウムイオンバッテリーでは、安全性を高いレベルで担保するために厳しい検査が実施されています。検査数も多いことから、大量のバッテリーをX線装置内に一度に取り込み、短時間で検査するニーズが高まっています。
- 当社X線・CT製品、225-RTは、このような様々なニーズや課題に応えていくことが可能だと考えています。
- 同製品は、高出力線源にアドバンテージがあり、これによる高速・高解像は当社のみが提供できます。

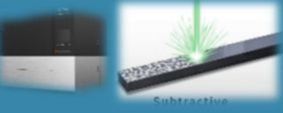
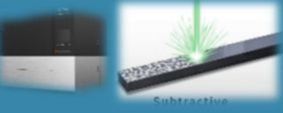
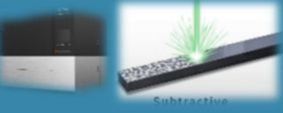
CNC画像測定システム、インライン計測			デジタル マニュファクチャリング事業	
革新的な計測ソリューションを製造現場に ～マーケットをリードするニコンの計測・検査技術が、次の一手をサポートします～ 	ソリューション概要			関連動画 NEXIVインライン https://youtu.be/PY-scMtXzs ウエハオートローダー： https://www.youtube.com/watch?v=EyoupLfKp2Y
	強み	・高精度：ステージ繰返し精度 0.5um ・高速：スループット従来比1.5倍 ・簡単：自動照明最適化	強化ポイント	・生産現場向け測定の高速化
	導入企業	1) 半導体後工程受託メーカー 2) 電気電子部品メーカー 3) 自動車部品メーカー		
	市場シェア (参考)	2021年：トップシェア 日亜の中高級機種市場におけるシェア(事業部調べ)	市場規模 (参考)	2021年：約500億円 画像測定機装置市場 (事業部調べ)

57

- 産業機器事業の最後が、CNC（Computer Numerical Control）画像測定システム、製品名でNEXIVになります。このNEXIVのインライン化についてです。
- それぞれの業界において、画像測定によるデジタル化のニーズがあります。
- 一例として、半導体のWafer Level Packageなど後工程の自動化ニーズが挙げられます。
- 画像測定に関する一連の製品群は、再配線層の測定やサイズの異なるウエハの自動搬送などのニーズに細やかに対応しています。
- 日本やアジアにおける画像測定機の中高級機市場ではトップシェアを維持しており、今後も堅調に市場をリードしていきたいと考えています。



- 続いて、中期成長ドライバーとして注力する材料加工・ロボットビジョンについてご説明します。
- 航空、宇宙産業などにおいては、軽量化を主題に複雑な形の高精度加工が求められるようになり、また、風力発電やガスタービン等の発電効率の向上なども社会課題になっています。
- さらに、自動車産業やエレクトロニクス産業では、製造ラインにおける物体の高速検知やピック＆プレイスの高度化も大きなテーマとなっています。
- ニコンは、露光装置開発等において、高精度計測や3Dアライメント、高速センシングなどの基礎技術を確立しており、また、さまざまなシステムを高度にインテグレートする能力も保有しています。
- こうした強みを活かし、付加加工、除去加工、いわゆる流体力学にもとづく表面微細加工であるリブレット加工、そしてロボットビジョンを、完成品・コンポーネント・受託加工サービスなどの形で顧客に提供していきます。

材料加工・ロボットビジョン	デジタル マニュファクチャリング事業				
事業スケール化の課題への取組み ■事業全体での戦略的多角化 ・関連性の高い4つの技術分野にフォーカス、収益向上・リスク分散を図るとともに相互に組み合わせ ■事業ごとに顧客・アプリケーション絞り込み ・広範囲の可能性から確立した事業プランに基づき、軸となるアプリケーション・エバンジェリストユーザーを獲得 ■計画・継続的アライアンスによる事業基盤の強化 ・スケール化実現に向けて、自社アセットを最大限活用するための連携・提携を推進し、スケール化を加速	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="850 365 1150 633"> Additive 航空・宇宙分野での 高付加価値加工  </td><td data-bbox="1150 365 1463 633"> Subtractive 金型・工具・難削材の 精密自動加工  </td></tr> <tr> <td data-bbox="850 633 1150 902"> Riblet 航空機・UAVの 飛行効率向上  </td><td data-bbox="1150 633 1463 902"> Robot Vision 自動車用部品 ピック&プレイスの 高度化・効率化  </td></tr> </table>	Additive 航空・宇宙分野での 高付加価値加工 	Subtractive 金型・工具・難削材の 精密自動加工 	Riblet 航空機・UAVの 飛行効率向上 	Robot Vision 自動車用部品 ピック&プレイスの 高度化・効率化 
Additive 航空・宇宙分野での 高付加価値加工 	Subtractive 金型・工具・難削材の 精密自動加工 				
Riblet 航空機・UAVの 飛行効率向上 	Robot Vision 自動車用部品 ピック&プレイスの 高度化・効率化 				
事業・顧客基盤を着実に強化しながら、ものづくりの未来を変えるソリューションを提供					

- 材料加工・ロボットビジョンにおいては、まず装置販売から市場参入しました。
- そして受託加工ビジネスに参入し、顧客との接点を広げています。
- ターゲット顧客とのしっかりとした関係構築を進め、有力アプリケーションを共同で開発、顧客のイノベーションを支え、牽引していきたいと考えています。
- またビジネスのスケール化にも同時に取り組んでおり、M&A・アライアンスの第一弾として、Additive Manufacturing（付加加工サービス）を宇宙航空産業に対して行っている米国企業Morf3Dを2021年4月に買収しました。
- 今後も事業・顧客基盤を強化し、ものづくりの未来を変えるソリューションの提供を目指します。

高付加価値
精密自動加工
幅広い加工材料

Additive

Subtractive

効率向上
CO2削減
自由形状加工

Riblet

Robot Vision

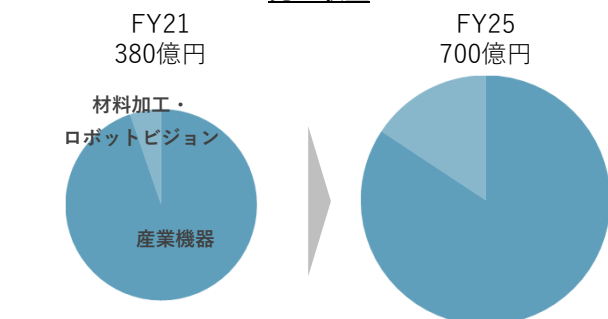
超高速
高い認識力
高い柔軟性

- なお、材料加工・ロボットビジョンの詳細については、是非当社WEBサイトをご覧ください。
- 本日はお時間の関係で紹介しきれなかった具体的な価値提供例をいくつかご紹介しています。

収益計画

デジタル
マニュファクチャリング事業

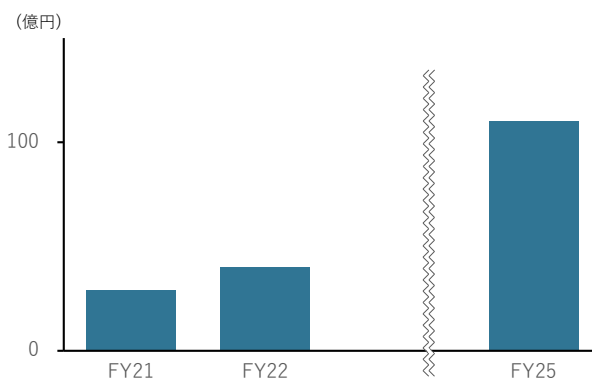
売上収益(※)



(サブセグメントの主要製品)

産業機器	レーザーレーダー、X線/CT検査装置、インライン計測、CNC画像測定システム、工業用顕微鏡
デジタルソリューションズ	材料加工（付加加工・除去加工・リブレット）、ロボットビジョン

営業利益(※)



アライアンスも活用し、年率10%以上の売上成長へ

(※) 報告セグメント「産業機器・その他」の売上収益、営業利益からスライド41の右下にある調整額を反映

61

- 最後に収益計画です。
- デジタルマニュファクチャリング事業は5つの事業の中で、今は売上収益・営業利益ともに最も小規模ですが、人と機械が共創する社会の中心企業になるために、代表的な役割を果たすと考えています。
- 材料加工やロボットビジョンは、世の中になく価値提供に挑戦する事業であり、売上規模は現状まだ20億円程ですが、リードカスタマーとのやり取りの中で、顧客とともにものづくりの世界に革新をもたらす手応えを感じております。
- 産業機器事業の今の主力ビジネスである工業用顕微鏡やCNC画像測定システム(NEXIV)が収益を下支えし、レーザーレーダーやX線/CT、インライン計測が売上成長を牽引し、中計後半には材料加工やロボットビジョンが成長を引っ張る計画です。
- 2025年度には全体で営業利益100億円以上に成長させ、その後もさらに成長することを目指します。